





# ～無料の抗体検査でC型肝炎チェックを！～ C型肝炎の治療方法が劇的に変化 飲み薬で治癒は目指せる時代に

C型肝炎とは、C型肝炎ウイルスに感染した状態の総称のこと。肝臓は「沈黙の臓器」と呼ばれるほど予備能力が高く、ほぼ自覚症状のないまま数十年かけて慢性肝炎、肝硬変、肝臓がんと進行する場合がある。近年、国や千葉県ではC型肝炎についての情報を発信し、検査や治療における啓発および推進活動を行い、高い認知がなされてきた。しかし、陽性結果が出て治療をためらう人や、そもそも感染自体に気づいていない潜在患者もまだ多いとされる。そこで今回、肝炎患に造詣の深い県内の医師2名にC型肝炎について取材した。

## C型肝炎とは

「C型肝炎における現状を教えてください。」  
「今、日本には推定100万、150万人のC型肝炎感染者がいるとされています。高齢になるほど感染率は高くなるのですが、定期的に医療機関を受診している方は50万人ほど。残りの相当数の方は医療介入されていなくて、ご自身でも感染を知らない場合があります。」  
「感染すると、どのように進行するのでしょうか。」  
「たとえばですが、非喫煙者に比べて喫煙者が肺がんになるリスクは10倍ほど。一方、C型肝炎の患者さんが肝臓がんになるリスクは通常の1000倍以上です。それほど肝臓は数10年かけてゆっくりと、しかし確実に進行する病気です。」



独立行政法人 千葉ろうきん病院  
消化器内科部長 田中武継(たけつぐ)先生

## 専門医療機関を受診する重要性

### 受診する重要性

「専門医療機関を受診する方法はありますか。」  
「インターネットで千葉県のホームページにアクセスして、「肝炎対策情報」をご覧ください。ちなみに当センターのC型肝炎患者さんは、75%が近隣の病院およびクリニックからの紹介です。もちろん当病院に直接ご相談いただくことも可能です。必ずしも最初から専門医療機関を受診しなくても大丈夫といえます。」  
「検査方法は、どんなことをするんですか。」  
「簡単な血液検査です。とはいっても、肝臓が悪いといっても飲酒など別の要因も考えられるため、健康診断とは異なる専用の検査です。肝機能の検査値を基に肝臓の余力を調べた後、超音波による画像診断を行います。」  
「C型肝炎と分かった後、治療方法はどのようなものがありますか。」  
「2014年9月から、飲み薬による抗ウイルス治療が普及しています。当センターでは2019年9月までに123名の患者さんが治療を開始しています。入院は不要です。」  
「その上で、専門医療機関を受診する重要性は。」  
「C型肝炎と一言でいっても、慢性肝炎や肝硬変の初期ではほとんど症状がみられません。黄疸やむくみ・脳症といった症状を自覚した時には、既に肝臓が進行しているため、肝臓がんが発生している可能性があります。進行具合によって抗ウイルス治療導入のタイミングを調整

「感染した時に、自覚症状はありますか。」  
「ほとんどない・食欲がないなどの体調不良を感じることはありますが、ほとんどの場合に自覚症状はなく、感染している事は全く分かりません。肝臓は予備能力が強い。つまり臓器としての機能が強く、7割削られても、最期の健康福祉センター(保健所)で保健師に相談してください。まずは、肝臓に感染しているかもしれないことを、無料で検査できることを知っていただきたいです。」

## 国・県の取り組み

「抗体検査は無料でできる」と聞きました。」  
「千葉県のホームページに無料で検査できる医療機関が、市町村ごとに記載されています。もし、最寄りの健康福祉センター(保健所)で保健師に相談してください。まずは、肝臓に感染しているかもしれないことを、無料で検査できることを知っていただきたいです。」  
「HCV抗体検査を受けたら、この後どうするのでしょうか。」  
「1989年以前に輸血や血液製剤による治療を受けた方、昔の衛生環境の悪さで注射針によって感染されている方もいらっしゃいます。このウイルスはアルコール消毒では死なないので、場合によっては若年層でも刺青やピアスの穴開けは県のホームページをご確認ください。」  
「肝臓が悪いと全く思っていない地域のみならず一言お願い致します。」  
「肝臓が悪いと全く思っていない地域のみならず一言お願い致します。」

## C型肝炎治療の進歩

「かつて治療の主流だったインターフェロンと飲み薬の違いはありますか。」  
「一番の違いは治療率の向上です。1992年に開始された抗ウイルス治療のインターフェロ



独立行政法人 東千葉メディカルセンター  
消化器内科副部長 亀崎秀宏 先生

「一部患者さんでは痒みなどの副作用を経験される方もいます。専門病院ではDAAの副作用対策もしっかりと対応できているので、治療を最後まで完遂できるようなりました。もし持病や他の理由でリスクが考えられる場合でも、必ず主治医から説明があります。」  
「誰でも治療対象になりますか。」

- こんな状況の方は要注意！
- 輸血を受けたことがある
  - 長期に血液透析を受けている
  - 非加熱血液製剤を投与されたことがある
  - フィブリノゲン製剤(フィブリン糖としての使用を含む)を投与されたことがある
  - 臓器移植を受けたことがある
  - 薬物注射の濫用、刺青(タトゥー)、ボディピアスを施している
  - 過去に肝機能検査で異常を指摘されているが、その後C型肝炎の検査を行っていない
  - 過去にC型肝炎ウイルス検査を受けたことがない

### 【医療費助成を受けたときの自己負担額】

世帯全員の市町村民税(所得割)課税年額	1ヵ月あたりの自己負担の上限額
235,000円以上	20,000円
235,000円未満	10,000円

自己負担は、患者さんの世帯所得(市町村民税課税年額)に応じて、月額1万円または2万円に軽減されます。

「肝臓が悪いと全く思っていない地域のみならず一言お願い致します。」  
「肝臓が悪いと全く思っていない地域のみならず一言お願い致します。」

2014年度から2017年度に20万\*人以上の患者さんがC型肝炎の治療に踏み出しました。

\*2014年度から2017年度C型肝炎に対する医療費助成受給者証の新規交付件数(厚生労働省「肝炎治療(インターフェロン治療、インターフェロンフリー治療、経口ウイルス抑制剤治療)に対する医療費助成」)

いまこそ、医師へご相談を。  
最寄りの専門医療機関を、こちらでご案内しています。

コールセンター  
フリーダイヤル  
**0120-25-1874**

治療のことがよく分かる小冊子を差しあげています。

詳しい情報や「患者さんの声」は、ウェブでご覧になれます。 [治そうC型肝炎](#) [検索](#)

C型肝炎のない明日へ







